

皆様、おはようございます。

磯部 芳規 と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、教育長選任のご審議をお願いするにあたり、私の教育行政に対する所信を申し述べさせていただきます。

私は、下関市教育委員会の教育理念である「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇りと志」を基盤として、「子どもを育てるなら学びのまち下関で」と言われるような下関市教育の実現に向けて力を尽くして参ります。

夢に挑戦し、夢をかなえるのは、学び続けることで成長した、未来の自分です。「生き抜く」とは、社会の変化に合わせて自分を変化・成長させていくことであり、そのために必要な力は学ぶ力です。一人一人が学ぶ力を身につけ、生涯に渡って学び続けることが、より豊かな人生を歩むためには欠かせません。

しかし、学ぶ力は、単に自分の幸せだけでなく、より豊かな社会の形成に寄与する力でなくてはなりません。

私が目指す下関市教育の実現に向けた、4つの重点的な取組についてお話をさせていただきます。

まずは、道徳教育の充実です。

平成30年度に小学校で、平成31年度には中学校で道徳科が導入されました。

道徳科の導入により、学校においては、いじめ問題解消のための力点を、現在の状況に応じた対応をする対症療法から、個々の根本原因を探り、その根本原因を取り除く原因療法へと移すなど新たな取組を進めています。

これまでの道徳教育の一層の充実を図ることで、いじめ問題解消はもとより、子どもたちが安心して、学べる学校の基盤づくりへと、つなげなくてはならないと考えています。

2つ目は、豊かな学力の育成です。

学力の2極化の背景に、家庭の経済格差が影響していると言われていています。

学校現場では、学力における格差解消に懸命に取り組んでいますが、生活習慣の未確立が学習習慣の確立を妨げるなど、小学校の早い段階で学ぶ意欲に大きな差が生じている状況であり、これを学校だけで打破することは、容易ではありません。

まずは、先般導入したタブレット等を活用し、子どもたちに学ぶ楽しさを感じさせるとともに、学力テストで測ることのできる認知能力と、自己肯定感や自己有用感など、生きる上で必要な非認知能力の育成の両面から学力向上に取り組んで参ります。

3つ目は、魅力ある学校づくりです。

教育課題の改善に向け努力する中、令和2年から続いた新型コロナウイルス感染症は、教育にも大きな影響をもたらしました。

学校では、ICTを活用したりリモート学習はもとより、家庭学習や学校での学習環境を工夫するなど、子どもたち一人一人の学びを保証していく努力を続けてきました。

併せて、学校行事や部活動といった教育活動に大きな歪みが生れました。

私は、学校は、魅力ある、わくわくする場所でなければならないと考えています。そのためには、子どもたちに充実感を味あわせる仕掛けが必要です。

子どもたち自身の手で魅力ある学校を創造させ、それを大人が支えることで、子どもたちに社会の課題に向き合う力が育ち、社

会が求める学ぶ力が育まれると考えています。

下関の子どもが下関ですてきな大人へ成長する拠点となるよう、魅力ある学校づくりを進めて参ります。

4つ目は、コミュニティ・スクールを中核とした地域連携教育の更なる充実です。

現在の学校がもつ教育資源だけで、様々な教育課題を解決することには大変無理があると考えています。社会全体で子どもの育ちや教育を支える環境を整えるとともに、誰もが学ぶことができる風土を醸成していかななくてはなりません。

幸い本市では全国に先駆けてすべての市立小中高等学校をコミュニティ・スクールに指定しました。さらに、地域学校協働本部を設置し、学校支援と、学校支援を通じた地域づくりを行う取り組みを進めています。

以上、4つの取組を重点としつつ、歴史や文化等を身近な場所で学ぶことができる生涯学習の環境を整備することで、社会全体の教育への関心や学びに対する意識を高めることが、「学びの街下関」の創造につながると考えており、今後もこの取組を大事に進めていきたいと考えています。

本日は、教育長選任の審議にあたりまして、私の所信の一端を述べさせていただく機会を与えていただきましたことに、心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

令和5年4月

磯部芳規